

# 森岳商店街だより 号外

2002/7/7

2002年3月1日から6月21日まで  
毎日新聞〈長崎県版〉に番外編も入れて13回にわたり  
森岳商店街が紹介されました。  
タイトルも『森岳そぞろ歩き』と付けられ  
大好評を博しました。  
読み落としもあるかも知れませんが、  
ここに総集編をお届けします。

森岳商店街会長 光永建一



連絡先事務局(松坂)0957-62-4414

<http://ww7.tiki.ne.jp/~wakaba/>



島原城と島原鉄道に挟まれた島原市の森岳商店街(約60店舗)。10年余の歴史がある。

創業は1877(明治10)年。九州で2番目に歴史のある金物店とか。安政年間(1854-1860)に造られた由緒ある店舗には、肥後守や鉄瓶などな建造物を生かした町並みなど見どころを紹介し、町おこしの記録をひもときたい。そこには、空洞化に頭を痛める各地の商店街や地域活性化へのヒントがある。



①猪原金物店

●こたわって本物、一生モノ

本物、そして「一生モノ」が信条。商品の説明を始めたばかりだ。猪原金物



店の包丁類は、いつまでも切れ味鋭い。98年に店を改装した際、南側に長さ25センチ、幅1センチの「速魚川」を造り、誰でも湧き水を飲めるようにした。せせらぎにはクレソンやハヤ、モズクガニが自生し、夏には蜚が飛び交う。

指し物、料理の鉄人。川の名前は、手塚治虫も愛用する「長次郎」の鮫皮おろしなど金物店の粋を越えた商品も。アンティークな雰囲気漂う店内は、ちょっとした博物館のようだ。

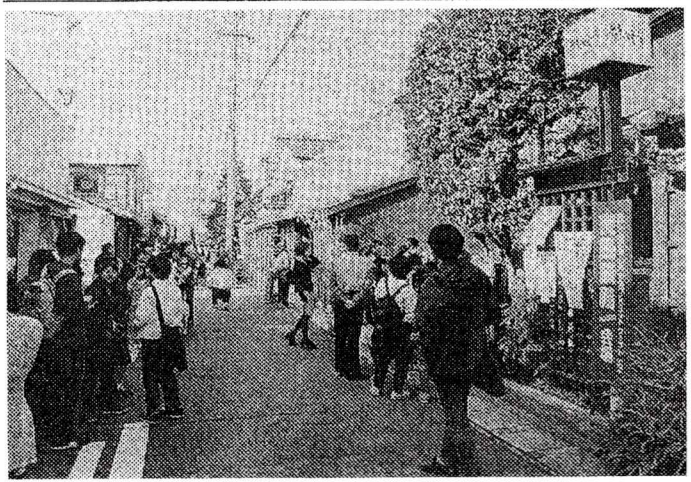
1962年に110坪のボートリングをし、トイレ、風呂から料理まで、毎分150リットルも自噴する無菌の地下水で賄っている。店内の床は一部れんが敷きとしゃれている。

茶房では、湧き水を使った島原名物かんざしや、妻美代子さん(45)の手料理(土日祝の昼食か要予約の夕食)も味わえる。【山崎太郎】



高原市上の町く片町の森岳商店街(約80店舗)で21~24日、「森岳春爛漫市」が開かれる。16店舗がさまざまなセールや

# 春爛漫市いかが? 森岳商店街で21~24日



多くの人出でにぎわった昨年の春爛漫市

イベントを催すほか、骨とう品や陶器の市、温泉めぐりなどもある。

「春の陽気に誘われて、森岳周辺をさらい(歩いて)みませんか」と商店街事務局。問い合わせは、わかば写真館09-57-62-4414。

【山崎太郎】



## ②青い理髪館

市や県の補助制度を活用して、外壁を元の水色に塗り直し、ひび割れた屋根瓦を補修して車椅子でも利用できるトイレを新設した。こうして老館は00年10月、「青い理髪館」として生まれ変わった。1階には喫茶「工房モモ」が入り、2階はギ

銀行の寮母を長く務めた渡辺やすえさん(51)が長女陽子さん(24)と切り盛りする。なるべく国産、低農薬の食材を原料に使

島原市上の町で長年、理髪館を営んできた老夫婦が市営住宅に引っ越すらしい。そんな話が流れたのは99年の夏だった。「取り壊されて駐車場になるのでは」。この10年ほど、市内の残った建物が次々と姿を消

理髪館も築後約80年が経過し、外壁は塗装がはがれて木の地肌がむき出し。雨漏りはひどく、トイレは黄ばみ、床は少しふいただけでぞうきんが真っ黒になった。

散髪に使われた革張りの椅子、大きな鏡が3面ある雰囲気そのまま残している。はさみなどの消毒棚は手作りクッキーやタルトの陳列棚に変わった。

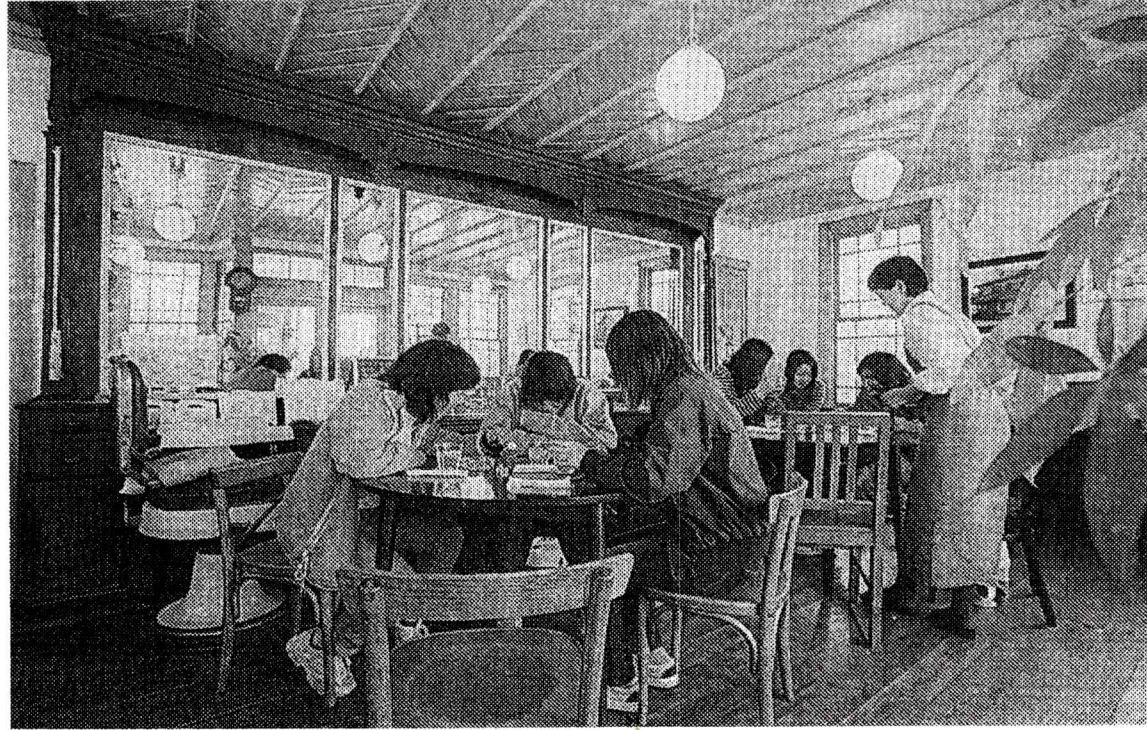
## ●大正ロマンの雰囲気薫る

「モモ」の方針だ。うのが「モモ」の方針だ。うのが「モモ」の方針だ。うのが「モモ」の方針だ。うのが「モモ」の方針だ。

「モモ」は、時間泥棒に盗まれた時間を取り返す少女の物語。「心ゆたかな時間を過ごせる街」を掲げる森岳商店街に、びっぴりとした店だ。

店名の由来となったミヒヤエル・エンアの名言「モモ」は、時間泥棒に盗まれた時間を取り返す少女の物語。「心ゆたかな時間を過ごせる街」を掲げる森岳商店街に、びっぴりとした店だ。

【山崎太郎】



散髪に使った鏡や椅子(左奥)が時代を感じさせる店内



# ●旧歯科跡 和楽器店に新生

1919(大正8)年、島原市上の町に一つの建物が造られた。長く歯科医院として使われ、多くの人が入り出した。時代は移り、あるしが去った後は断続的に借家として使われた建物も空き家となる。空き店舗対策ほどの商店街も頭痛の種。森岳商店街も例外で



## ③絃燈舎

別場所で和楽器店を営んでいた三浦典子さん(53)に白羽の矢を立てた。「心ゆたかな時間を過ごせる街」森岳にびつたり業種。森岳のまちづくりにも理解がありそ

和楽器店は昭和30年代、腕利きの三味線職人だった父の清武さんが始めた。94年、清武さんが82歳で他界。無気力になり、店をたたもうかと思っていたときに「いい場所があるから来ないか」と誘われた。あれよあれよという間に決まった話だが、移転して良かったと思っている。

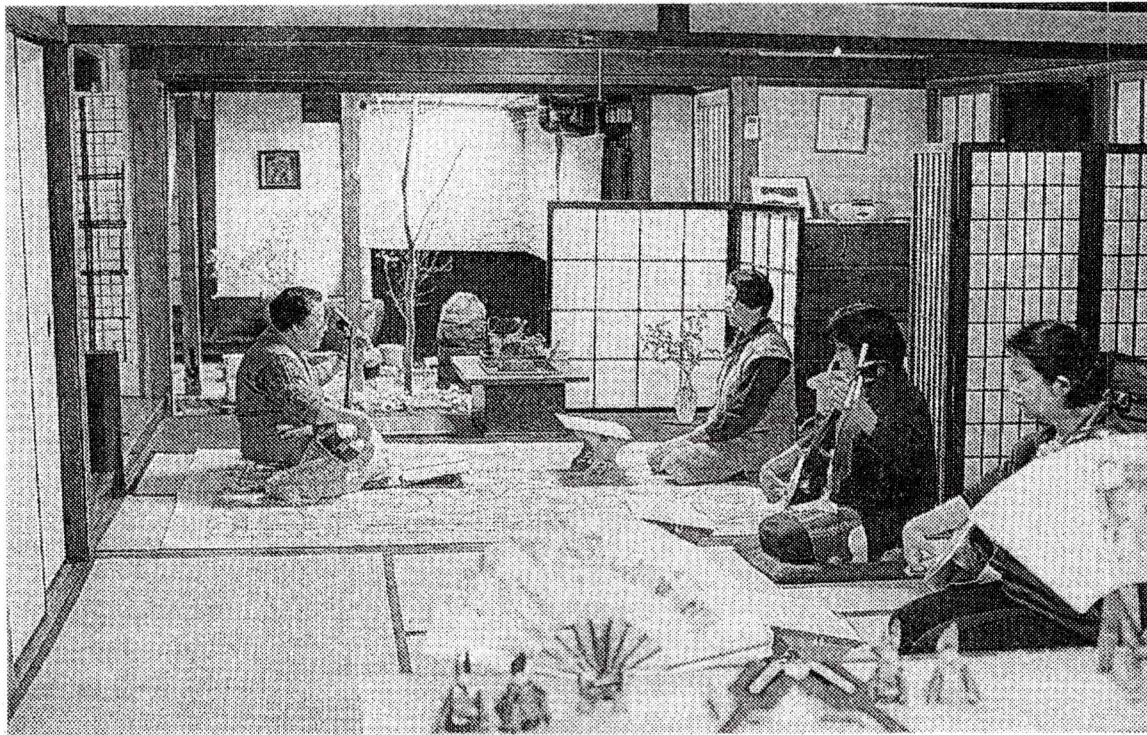
絃燈舎は東西に長く、店に入ると舞扇、花笠、鳴子など日本舞踊に使う小物類や陶器が目に入る。和楽器は湿気に弱く、受注販売であることが

「改装前はお化けが出そうだった」(三浦さん)ほど老朽化していたが、現在の店舗は建物が醸す歴史を巧みに生かし「和」の趣で統一されている。新築、改装でなく改装で済ませた建物が島原市の訪れる。人気の「吉田兄い。」

「古い家は簡単に壊すもんじゃない」「男の三味線教室」も開いている。

客は父の代から家族同様に付き合ってきた人ばかり。天草や五島からも訪れる。人気の「吉田兄い。」

「山崎太郎」



稽古場の奥は日本庭園になっている



# ●「資金ゼロ」の文化施設

もカラー舗装 使われた。  
も何も無い。金をかけて箱モノを作  
でも森岳には、古里の良さを  
を直す目とアイデア、  
情熱さえあれば、何も手  
を入れていないおんぼろ  
酒蔵も立派な文化施設に  
なる。  
物言わぬ酒蔵は、そう  
教えてくれる。  
【山崎太郎】

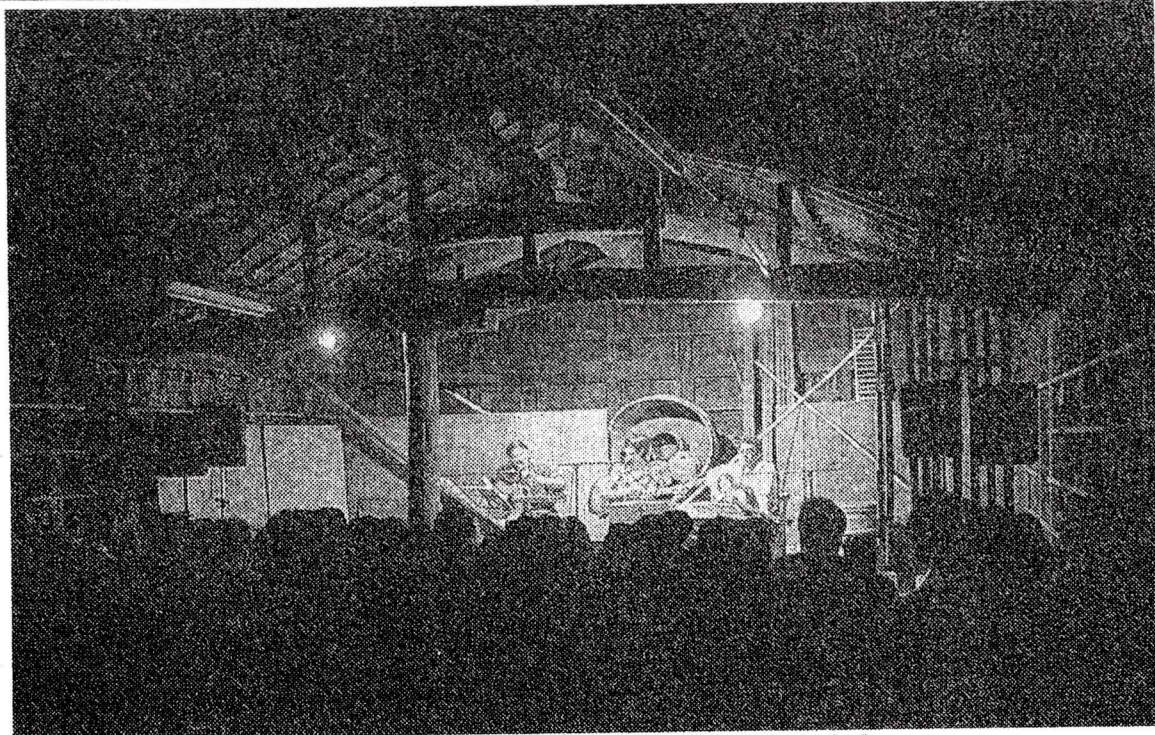
たてつけの悪いドアを、い理髪館と  
力まかせにスライドさせ、並ぶまちづ  
て酒蔵に入ると、かすかくりの核施  
に木のおいがする。広設だ。73年までは焼酎造  
さは20坪×7坪ほど。2りに使われ、以後は貸し  
本の柱、太いはり、床、倉庫になっていた。  
すべてが木造だ。奥には、その古い建物が現在、  
酒樽が見える。コンサートやフォーラム  
島原城を間近に臨む酒 などに活用されている。  
店・宮崎商店(宮崎祐一 話は94年にさかのぼ  
さん経営)の酒蔵は、青 森岳商店街の有志や



## ④酒蔵

酒蔵は1905(明治 38)年の築。1階で焼酎 を造り、2階は職人の寝 泊りなどに使っていた。 歴史ある建物をまちづ くりを生かそうと、島原 に縁のある芸術家約30人 を招き、酒蔵の2階でフ ォーラムを開いた。その 時、女性ピアノリストがこ んな指摘をした。

「現代のホールは音が響きすぎる。酒蔵はちょ うど良いのでは」と。 有志で酒蔵文化の会を 結成し97年1月、初め てのコンサートを酒蔵で 開いた。約140人で埋 まり「床が抜けるんじゃないか」と主催者を心配 させた。 以降もジャズ愛好家と フォークソング好きのメ ンバーが人脈をたどって プロのミュージシャンを 年に数回招いている。雰 囲気が良かった。「随分 地方回りをしたが、これ ほど客と身近に接したの は初めて」。酒蔵コンサ



昨年9月にあったコンサート。奥には酒樽が見える



島原鉄道の島原駅から「ラス」と胸島原城に向かう「七万石」を張る。

# ●古本の「プロショップ」

活から毎日 少なくない。新聞の元島原 市内に最近「新古本」支局員が記し を扱うチェーンの書店が 進出した。でも、小川さんほざりと言う。「森岳の生きる道は『プロショップ』だと思っ。ここにしかない商品を扱って じゃあいい」

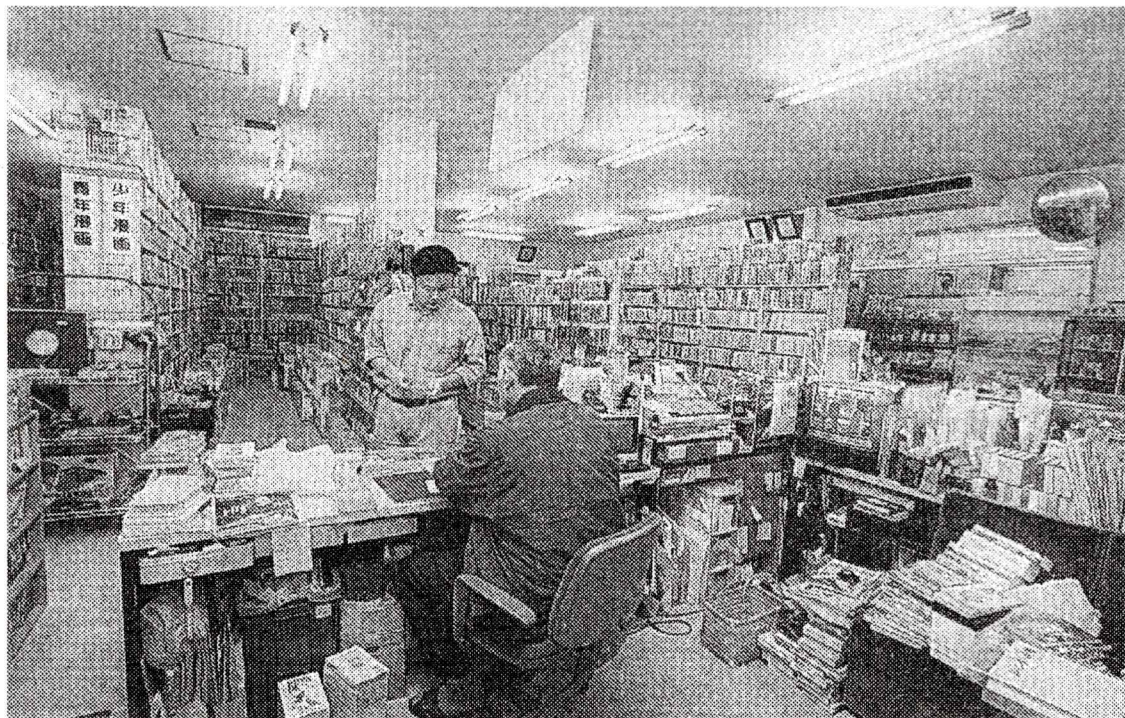
島原鉄道の島原駅から「ラス」と胸島原城に向かう「七万石」を張る。坂」の途中に、古書籍・東京オリ月光堂はある。セットで、ペンピックのころ、小学生ビニール袋に入った漫画だった小川さんは初めて画、表紙が少し傷んだ文漫画を手にした。「伊賀庫本、古書……。店内はの影丸」「サブマリノ一貝、普通の古本屋だ。07」「ジャイアントロしかし、店主の小川泰一ポ一に胸躍らせた漫画少さん(44)は「昭和40、50年は漫画青年、漫画中年年代の懐かし漫画」のになり、数千冊の漫画が在庫数では九州トップク たまった。



## 月光堂

趣味が高じて89年、島 趣味が高じて89年、島 原に古本屋を開いた。店 原に古本屋を開いた。店 画少年」に掲載された手 塚治虫の「ジャングル大 帝」の完全複製版(限定 50部、15万円)などの稀 観本だった。

当初は漫画だけを扱っ ていたが、市内の骨とう 品屋からアドバイスされ た。「島原の古本屋は島 原の乱、島原大変、隠れ キリシタンに詳しくなけ ねばならない」。この一 言がきっかけで、郷土史 にも力を入れた。 95年、東京の古本市で 島原の乱について記した 「参考島原記」を見つけ



ぎっしりと本が並ぶ店内。資本もしている



街灯というのは、まちの顔と言えりかもしれな。国見町には照明部分にサッカーボールをかたどった街灯が並び、島原市役所周辺には精霊船に使う「切子灯ろう」の形をした電灯がある。

道祖神をイメージした森岳商店街の街路灯もこの街路灯、活躍するのは夜だけではない。両面



⑥街路燈

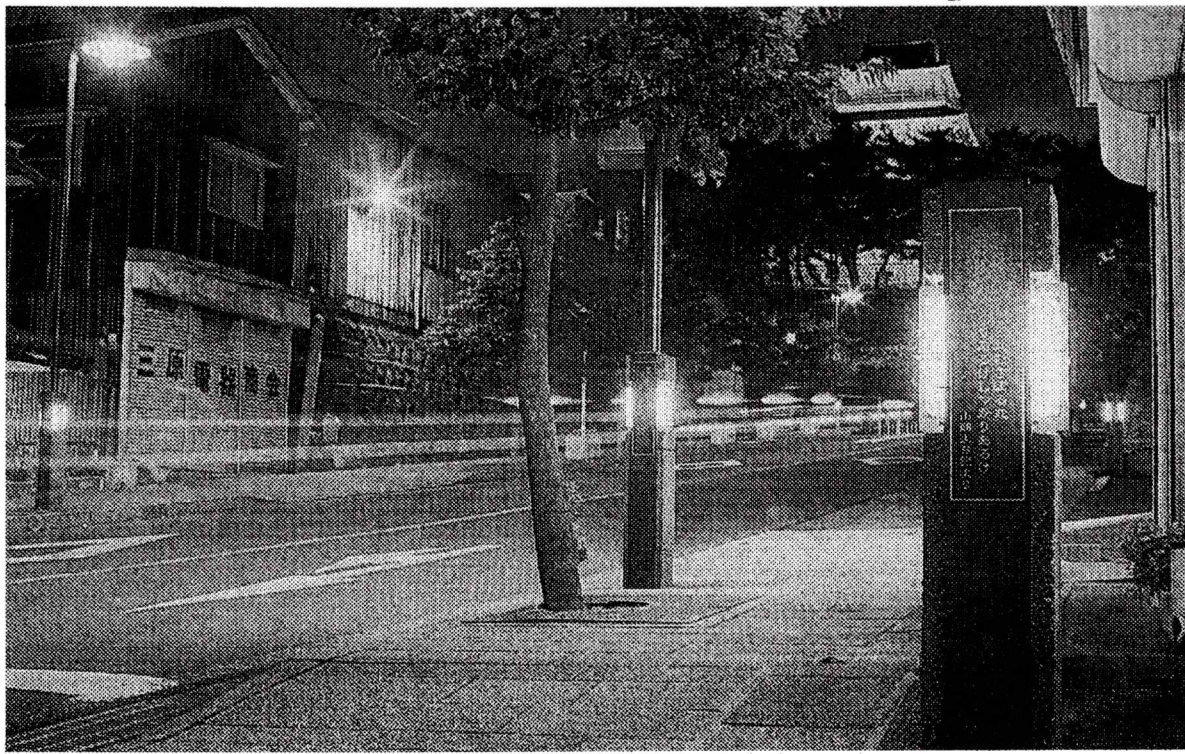
「酒蔵 八〇米」など道案内もの▽「駄」が街灯の所有権を主張し、島原の乱」など地元の方ルタから引用したもの▽「平成の普賢岳噴火 平成二年十一月」など歴史もの▽「雲仙の秋の草々」など古里を詠んだ短歌、俳句もの▽がある。

バラエティー豊かな街の顔

一般的に街灯だったが、老朽化が進み台風で折れたものを機に立て替えること「蛾を集めるような明るさはエネルギーの無駄。商店街の役員は店や民家の一部(私有地)に街路灯を立てさせてくれよう依頼して回った。事業費9000万円。皇陛下が詠まれた歌だ。普賢岳噴火で家族や家を失った市民にとって、91、95年の天皇、皇后両陛下のお見舞いは力強い激励だった。陛下の気持ちを多くの人に知ってほしいと歌を街路灯に拝借したという。

もともと、さすがに自分の家や店先に置きたいという人はなく、市役所近くの駐車場にひっそりと立っている。

【山崎太郎】



種田山頭火の日記が引用された街路灯(右)。左端は5・5の街路灯、後方は島原城



これまで森岳商店街に生まれた見どころを紹介してきたが、それらの多くは長年の「土づくり」があって花開いたものだ。シリーズ後半は商店街の若手を中心とした、商店街活性化とまちづくりの歴史をレポートする。

【山崎太郎】

島原城下に広がる森岳 一張羅を着て「城下」へ商店街は、島原市で最も 出かけたぞうだ。歴史のある商店街だ。問 だが、時の流れの中で屋が多く、半島内の小売 街も変わっていく。近く店主が仕入れに訪れ、戦 にアーケード街ができ、前、戦後は島原一にぎわ スーパーや大型店が進出した。当時、店主たちはすると、客足は遠のいた。



### ⑦湯布院視察

## ●若手後継者、噴火で奮起

森岳は外回りで注文を取って食いつなぐしかなかつた。そして、90年11月の普賢岳噴火が追い打ちとなり、売り上げは激減した。「することと言えば積もった灰の掃除くらい」。商店街事務局で写真館を営む松坂昌彦さん(47)は苦笑まじりに振り返る。

当時から商店街会長を務める光永建一さん(70)は「このままでは衰退の一途」と、数少ない若手後継者を集めて呼びかけた。「青年部を作ろう」。いつの時代も変革の風は血気盛んな若手から起きるもの。ちやかす者もい

だが、集まった10人ほどが決意した。「まずは勉強会をしよう。三日坊主にしないよう、毎月3日に開こう」ところが、である。91年6月3日夜に予定していた1回目の勉強会は、大火砕流で吹き飛んだ。それから3、4カ月の島原は非常事態だった。集まったのは秋だった

が「皆の危機感が尋常でなかった」と松坂さん。眠りから覚めた山は、青年たちの目をも驚ました。経営的にも尻に火がついていた。今度は誰もちやかさなかった。「自分たちは、各店舗は、商店街は何をするべきなの

か、真剣に話し合った」を視察した。松坂さんは「光永会長は往年の商店街の姿を取り戻したいとの話が耳に残った。『目願ったが、若手の考えは少し違った。』観光客に立ち寄ってもらえるまちにしよう」

92年5月、光永会長や若手、中堅10人は3台の車に乗り込み、観光で成人数に何度も来てもらう功していた大分・湯布院湯布院型がある」という

古書店経営、小川泰一さん(44)は観光協会長の「観光地には一見の団体客を集める別府型と、少人数に何度も来てもらう

話にヒントを得た。湯布院で今後の方向性と「思いを持ち続けられできそう」という手ごたえをつかんだ。視察メンバーの多くがその後、商店街の役員やまちづくりの中心を担うことになる。「土産」の多い湯布院視察だった。

(写真は従来通り散策スポットを紹介します)



林家京染店(中町)。「本物志向」が店の信条で、落ち着いた雰囲気の内には、反物以外にも京小物やのれんなどが並ぶ



# ●地図づくりで「錬金術」

「森岳商店街の錬金術 中の明るい話題。30分番組と呼ばれた男がいる。組で全九州に流したい。これまで何度か登場している古書籍店のあるじ、小川泰一さん(44)だ。

92年秋、大分・湯布院視察で刺激を受けた商店街の青年たちが中心になって「青年文化祭」を開いた。評判は良く、後日あるテレビ局が「災害の

もう一度文化祭をやりたい」と言ってきた。ほしい」と言ってきた。はい、そうですかと言えぬ話ではない。だが、小川さんは少し違った。「島原には親切な案内図がない」とかねてから考えていた。「古地図風

の地図や文献をあまり、市内を歩いてお勤めの場所を調べた。プロにイラストを依頼し、商店街の京染店が使っていた反物の巻き芯を筒に再利用し、付加価値もつけた。「平成嶋原大變之圖」と「うれっさたのっさ島原道中」(A2判、カラ

が完成した。原価は一枚150円。各店への卸価格は250円。販売価格は「出しで」の500円なので、店も商店街も利益がある。しかも「売れ残りは払い戻す」と損失補償までつけた。

ある夜、商店主向けの説明会を開いた。「一口20枚で5000円。おまけに10枚無料で進呈するので、最大4口出せば2万円が6万円に!」。各店がこぞって仕入れた。



14. 5. 10

## ⑧資金と自信

「山崎太郎」が完成した。収益は北海道南西沖地震と阪神大震災の被災地差し引き80万円が商店

ったが、まあやってみよう。商店街事務局で写った。湯布院で学んだ大事なのは思いの強さだ。活性化資金は使い切ったが「ゼ口からお金を作った」自信は残った。



【見どころ紹介】中屋(城内1)。みそ蔵を改装した喫茶部では、郷土料理の「六兵衛」などが味わえる



# ●経験開花、視察「される」側に

「森岳商店街の視察に  
かける熱は半端じゃな  
い」。島原商工会議所の  
末永節夫・総務係長(42)  
が舌を巻いた。

森岳では各店が毎月3  
000円を積み立てて年  
1回、湯布院町(大分)、  
熊本市、日田市(大分)、  
甘木市(福岡)などを視  
察してきた。極めつけが

95年の「1泊4日」の滋  
賀県彦根、長浜市視察だ。  
商店街会長以下十余人  
は金曜の夕方まで働いた  
後、島原駅に集合。夜行

は島原に着き、眠い目の  
まま仕事に――。

「朝早く出ても現地に  
着くのは昼過ぎ。時間を  
無駄なく使いたい」と商  
店街事務局の松坂昌彦(47)  
店街事務局の松坂昌彦(47)  
安藤直樹さん(39)は湯布  
院視察後「森岳は歩くた  
けで気分が落ち着く通り  
であつてもいい」と記し  
た。視察で得たものは、  
森岳のまちづくりに漏ら  
さず還元されている。

報告集は視察先にも必  
ず送る。結果「電話一本  
で話ができる関係」が案  
な悲惨なスケジュールの  
考えうるフォーラムを島原

で開いたときも、湯布院  
の「空想の森美術館」館  
長が九州在住の芸術家を  
集めてくれた。

以降、それまでの蓄積  
が街路灯や絃燈舎、青い  
理髪館へと花開いていっ  
た。それに比例するよう  
に、視察される回数が増  
えていった。安藤さんは  
「一人の流れは増えたけど  
店の売り上げが大幅に増  
えた訳じゃなし。いいの  
かなあ」と頭をかいた。

列車で土曜朝に現地入り  
し、城下町の彦根や「黒  
壁」で有名な長浜をつぶ  
さに見て回った。翌日は  
大阪の商店街を回り、再  
び夜行で帰省。月曜朝に

「朝早く出ても現地に  
着くのは昼過ぎ。時間を  
無駄なく使いたい」と商  
店街事務局の松坂昌彦(47)  
店街事務局の松坂昌彦(47)  
安藤直樹さん(39)は湯布  
院視察後「森岳は歩くた  
けで気分が落ち着く通り  
であつてもいい」と記し  
た。視察で得たものは、  
森岳のまちづくりに漏ら  
さず還元されている。

報告集は視察先にも必  
ず送る。結果「電話一本  
で話ができる関係」が案  
な悲惨なスケジュールの  
考えうるフォーラムを島原

で開いたときも、湯布院  
の「空想の森美術館」館  
長が九州在住の芸術家を  
集めてくれた。

以降、それまでの蓄積  
が街路灯や絃燈舎、青い  
理髪館へと花開いていっ  
た。それに比例するよう  
に、視察される回数が増  
えていった。安藤さんは  
「一人の流れは増えたけど  
店の売り上げが大幅に増  
えた訳じゃなし。いいの  
かなあ」と頭をかいた。

以降、それまでの蓄積  
が街路灯や絃燈舎、青い  
理髪館へと花開いていっ  
た。それに比例するよう  
に、視察される回数が増  
えていった。安藤さんは  
「一人の流れは増えたけど  
店の売り上げが大幅に増  
えた訳じゃなし。いいの  
かなあ」と頭をかいた。



## ⑨ 1泊4日

貧乏性と言われればそ  
れまでだが、エネルギー  
シユな金物店主の猪原信  
明さん(47)をして「こん  
な悲惨なスケジュールの  
視察を体験したことはな

森岳が新聞社主催の  
「ふるまじつくり奨励賞」  
を受賞したのをきっかけ  
ひとしおだった。

森岳が新聞社主催の  
「ふるまじつくり奨励賞」  
を受賞したのをきっかけ  
ひとしおだった。

森岳が新聞社主催の  
「ふるまじつくり奨励賞」  
を受賞したのをきっかけ  
ひとしおだった。



【見どころ紹介】島原新聞社(中町)。島原半島のニュースを扱う日刊紙。1899年創刊、部数1万5000部



# あすから 島原城大骨董祭

## 九州、関西、関東から47業者出店

「第1回島原城大骨董祭(森岳商店街主催)」が25、26日、島原市の島原城天守閣北側で開催される。九州各県や関西、関東から計47業者が出店する。主催者は「九州でも有数の規模。ありとあらゆる種類の骨董品を用意します」と話している。

森岳商店街では上の町にある「酒蔵」で年2回骨董市を開いていたが、昨秋は会場を島原駅に移して「嶋原駅前大骨董市」を開き、2日間延べ約3500人が訪れる盛況

【山崎太郎】



## ⑩心豊かな時間

「まちづくりは場当たり的なりかねないけど、コピーが物事を判断する物差しになった」と森岳商店街事務局で写真館経営している。[絵に描いた餅

「まぢつくりは場当たり的なりかねないけど、コピーが物事を判断する物差しになった」と森岳商店街事務局で写真館経営している。[絵に描いた餅

「心ゆたかな時間を過ごせる街」。これが森岳商店街のキャッチコピーである。光永建一会長(57)の名刺にも、島原城の写真とともに記されている。

大分・湯布院で視察した商店街が「ひと・マチ・笑顔、咲いてます」のキャッチコピーをつけているのを見て、森岳の青

96、97年度の空き店舗対策と街路灯建て替えで、森岳商店街は東京のコンサルタント、平野信之さん(57)を招いた。地元の名刺にも、島原城の写真を記している。

大分・湯布院で視察した商店街が「ひと・マチ・笑顔、咲いてます」のキャッチコピーをつけているのを見て、森岳の青

# ●時代先取る商店街の「憲法」

店街として再生するのは不可能だ。では何を消費するのか。平野さんは森岳のテーマを「心豊かな時間を消費する街」とした。

ただ、消費という言葉は大量生産、大量消費を連想させてイメージが悪い。森岳の面々は「豊かな」は平仮名の方がよい」と議論を重ね、現在の「キャッチコピー」を練り上げた。

「まちづくりは場当たり的なりかねないけど、コピーが物事を判断する物差しになった」と森岳商店街事務局で写真館経営している。[絵に描いた餅

97年3月、平野さんが報告書を作成した。光永会長の巻頭言が振るって、[絵に描いた餅

「心豊かな時間を消費する街」とした。

ただ、消費という言葉は大量生産、大量消費を連想させてイメージが悪い。森岳の面々は「豊かな」は平仮名の方がよい」と議論を重ね、現在の「キャッチコピー」を練り上げた。

「まちづくりは場当たり的なりかねないけど、コピーが物事を判断する物差しになった」と森岳商店街事務局で写真館経営している。[絵に描いた餅

97年3月、平野さんが報告書を作成した。光永会長の巻頭言が振るって、[絵に描いた餅

実現したか、着手中だ。酒蔵、月光堂の外観、絃燈舎、速魚川……。

光永会長は報告書でこう締めくくっている。「森岳商店街に所属していることが誇りに思えるような商店街にしていきたい」

【山崎太郎】



【見どころ紹介】喫茶サンパン(中町)。住民や行政マン、マスコミのサロンとなっている



# ●商店街に女性パワー 花開く

森岳商店街には「フラワーズ」と「つぼみ組」という女性「別働隊」がいる。

大分・湯布院で視察した商店街の婦人部が「フラワーズ」と名乗っていた。名前をハイなく、島原市上の町、中町、片町に商店と民家が混在している②各店舗は住居も兼ねている③若手後継者に恵まれ、多くの

視察後に開いたイベント「青空文化祭」で、森岳の青年たちは早速このアイデアを拝借し、上の町町内会婦人部に提供し、一角を「フラワーズのコーナー」とした。女性たちにも好評だった。

フラワーズは店主の妻たちで構成され、平均年齢も高い。これに対し跡継ぎ息子の妻や独身女性たちは「あの人たちがフラワーなら私たちはつぼみ」というわけで「つぼみ組」を結成した。

フラワーズは種、苗から育てた花や山から採ってきた花で店先を飾り、パッチワークなどの手づくり小物を商店街のイベントで販売している。安藤好子さん(63)は「季節感のある花を見ると落ち着くでしょう。趣味の延長で楽しみながらやってます」と自然体だ。

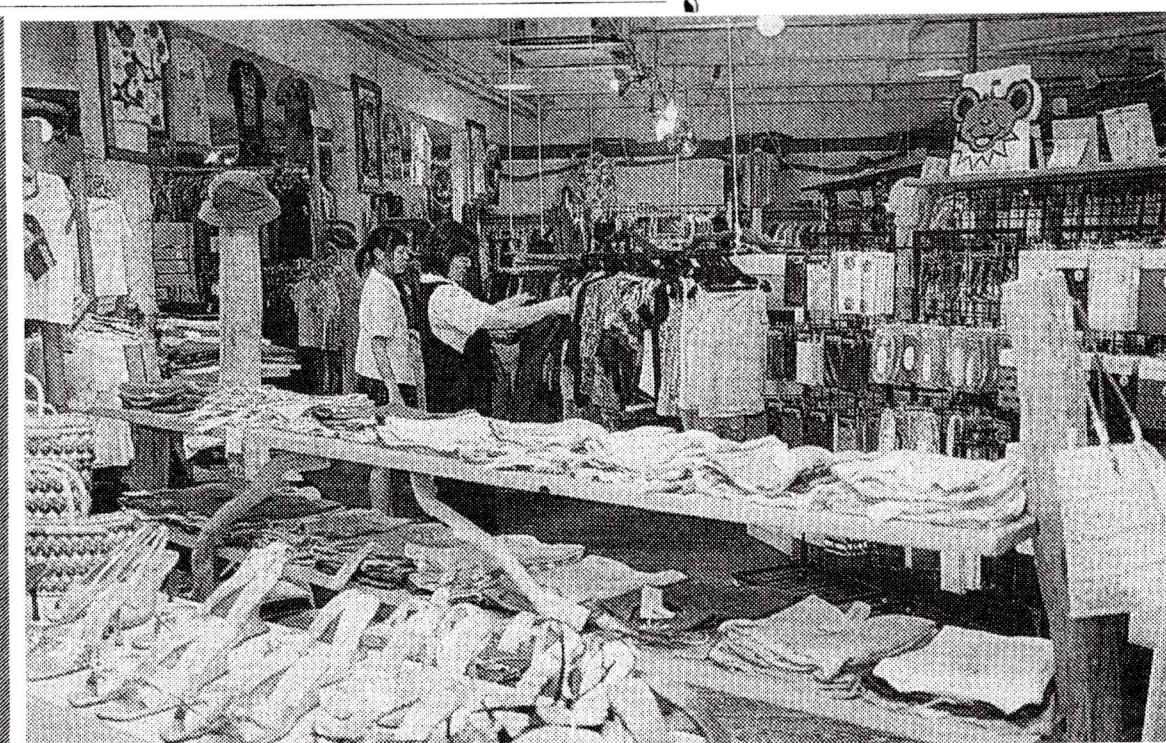
つぼみ組の活動が本格化したのは商店街が予算をつけた97年から。各店の特売やイベント情報を取材し、B4判の色紙にまとめた「かわら版」の発行を始めた。2代目組長の村田真樹子さん(30)は「つぼみ組の役割は縁の下を力持ち。かわら版で店同士をつなぐことができた」。

## ⑪花とつぼみ

このほか、市商店街連

盟が歳末大売り出しに合せて実施した2万通のアンケートの分析を請け負い、島原城のイベント「のぼり上げ」では参加者に食事をするまじった。村田さんは「かすみ草かな。バラとかユリじゃないですね」。そして笑った。「次は女の時代よ。これまでまじりくりに引っ張ってきた松坂昌心さん(写真館)、猪原信明さん(金物店)、小川泰一さん(古書籍)。いずれも子どもが「娘」ばかりだからだ。

【山崎太郎】



【見どころ紹介】ニーニョ・ニーニャ(上の町)。「男の子、女の子」を意味するカジュアル衣料品店



「森岳は1、2年で大協定を結ぶ必要がある」と言っています。島原が、景観向上に寄与する民家や店舗の改修にも補助金が出る。

背景には、道路整備や街並み保存に国が費用の半分を補助する「街なみ環境整備事業」の対象地域に、市が選ばれていることがある。事業の適用を希望する地区住民は自ら改修と沿道の商店、民分たちで同意書を集めて家改修が動き出した。



⑫ まちが変わる

●「日本人の原点」見つめ続け

道路改修に当たって市やコンサルタントに丸投げせず、若手8人が「研究会」という実行部隊を立ち上げた点に、森岳の真骨頂がある。「まちづくりを10年やってきた。全くの素人ではない。自分たちのまちは自分たちの手で」とメンバーの猪原信明さん(47)。

昨年3月の発足以降「毎週、必ず」木曜夜に集まり何時間も喧嘩調議を続けてきた。「そもそも道路とは何か」から始まり、自分たちの道路哲学を練り上げた。町内の建築デザイナーと測量事務所も、無償で協力した。

その積み重ねが最初に形になったのが、宮崎酒店横に完成した市道「東虎口坂」だ。

上の町が目指すのは車より歩行者が優先される「歩くのが楽しい」道路。湧き水がせせらぎとなり、湧き水がせせらぎと撤去する。研究会が描く道路が現実になる日は、そう遠くない。

◇ ◇

理容店を営む橋本博仁さん(36)は画才を買われ、上の町の未来予想図をデッサンした。古い民家や商店は城下町にマッチした純和風の建物になり、湧き水が流れ込む池が描かれていた。

01年度は上の町の商店など3軒が事業の補助金を使って、トタンの壁をしっくい壁にしたり、外観を見栄え良くした。永田係長はさらに29の民家、商店が補助の対象になりうるという。森岳が良くなって、他地区にも飛び火してほしい」と期待する。

◇ ◇

猪原さんと、ともにまちづくりに情熱を注いできた松坂昌心さん(48)は写真館経営がイメージする森岳の将来像は、高度成長期以降「効率」の下に切り捨てられたものを取り戻した。日本人が当たり前のよきに持っていた近所づき会を掲載します。

◇ ◇

あいや支えあいの心、目に見えないものへの畏敬が脈々と流れ、金銭的に豊かなくても、高齢者から子どもまで生き生きと暮らすまち。この10年、まちづくりの先頭に立ってきた2人が見据えるのは、そんな姿だ。

新しい10年が、今から始まる。【山崎太郎】

◇ ◇

「おわり」次週は番外編として、森岳メンバーによる座談会を掲載します。



島原城天守閣から見た森岳のまち並み(写真中央付近)。さらに発展する可能性を秘めている



番外編 商店街座談会

6月のある夜、島原市上の町の「茶房・速川」。森岳商店街の主要メンバーが一人、また一人と集まる。戸口から吹き込む風で風鈴がにぎやかに響く。「森岳ぞぞろ歩き」番外編、11人による座談会。10年の歩みを総括し、今後どうするか議論は深夜まで続いた。

【山崎太郎】



何とかせにゃ」の精神で

10年の歩み

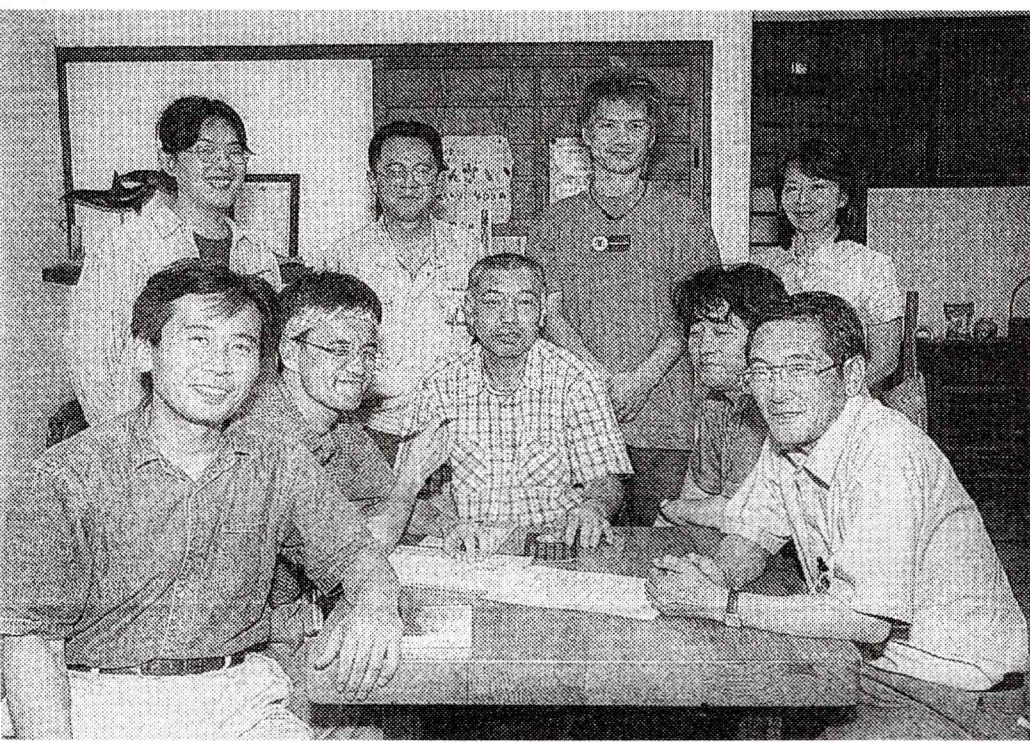
「この10年をどう評価しています？」

松坂昌成さん(48) 写真館 もし10年間何もし

光永建一さん(57) 商店街会長

「やればできる」と思え

街づくりは終わりになく



なかつたら、商店街はか  
なり衰退していったはず。  
不況だからまちづくり効  
果は現状維持程度かもし  
れないけど。  
「成功した」部類には入  
っていない。時代に合っ  
たまちづくりは進行中だ  
し、終わりはない。ただ  
「やればできる」と思え

るようになった。

小川泰一さん(45) 古  
書店 テレビで「まちづ  
くりの先進地」と紹介さ  
れ、視察に来られる側に  
なった。地元の人にも森  
岳の良さに気づいてもら  
えるようになった。

猪原信明さん(47) 金  
物店 大分・湯布院視察  
で「まちづくりは民間で  
できる」ことにショック  
を受けた。猿まねと言わ  
れようが、視察で得たも  
のをすぐ実行する腰の軽  
さがあった。「まちづく  
り講演会をやって終わ  
り」という図式は森岳に  
はなかった。

松坂 視察後「オレた  
ちには無理」とできない  
理由ばかりあげる人もい  
るけど、僕は後がなか  
ったから、それはしなか  
った。

——森岳を見ている  
と、徹底的に「視察に使  
った元を取る」という姿  
勢を感じます。悪く言え  
ば貧乏人根性、良く言え  
ばハングリー精神旺盛。  
だから視察の成果は細大  
漏らさず生かされ、投資

連載を終えて

は、民主主義の一つの  
見本だ。

島原支局は以前、森  
岳商店街の一角にあっ  
た。私が赴任する際に  
転居したのだが、もし  
森岳に住んでいたら、  
近すぎて、まちの魅力  
に気づけた  
かどうか。  
森岳の真  
の魅力は「民主主義を  
体現した」点に尽きる  
と思っている。商店街  
の青年たちが意識して  
いたかどうかはともか  
く、10年余「自分たち  
で考え、自分たちで行  
動する」ことにこだわ  
ってきたまちづくり  
効果が上がった  
光永 貧乏じゃないの  
よ。土地、家持ちが多い  
から。(笑)「何とかせ  
にゃ」という気持ちがあ  
って、体面は気にしなか  
った。  
小川 多いときは1年  
の3分の1は会議。夜中  
の2時までとか。  
猪原 商店街の意識も  
変わった。以前は自分の  
店の販売促進のために何  
かやろうという考えだっ  
たが、今は店に入らなく



いであって  
これだ。上  
り調子の時

も記事で  
風を送り  
たい。  
でも人が気持ちよく歩い  
てもらえればいい、と。  
光永 以前は今より入  
通りが少なかった。十数  
年前、県の商業診断で「観  
光客もターゲットにした  
い」と言ったら、頭から  
けなされた。「絶対無理  
だ」と。  
猪原 他の商店街から  
もばかにされてた。「昔  
は一番繁盛していたのが  
この落ちぶれよう」と何  
回聞いたか。悔しかった  
ねえ。



本館



(第3種郵便物認可)

# 噴火で気持ちが一つに

## 人材

座談会に参加された皆さん

森岳って、役者がそろっている。若手、年配、突っ走る人、フォロ―する人、役割分担もできている。でも、皆さん特別な人ではない。

光永 それが発害の恩恵。バラバラだった皆の気持ち噴火で一つになったから。

松坂 自分の店だけでなく、地域に人をどう呼ぶか考えるようになった。

光永 この東隈は半島の商店街だった。地理的、人的に人を集める素材はあった。皆が自覚めて頑張ったから、少しずつ人が集まりだした。

村田真樹子さん(30) 飲食店 会議をしていても(宮崎)東三さんや(中川)恵勝さんがいい具合に水を差してくれるので暴走しない。

青い理髪館に一番通っているのは東三さんと聞きます

宮崎東三さん(45) 保険 代理店 理髪館も(リニューアルした)猪原金

物も成功してほしいから。それが皆がやってきたことの一番の証明になる。私はこのほり上げの要員とか、できることをやってきただけ。

森岳が恵まれていたのは、まちづくりをやるついでに、磨けば光る資源や歴史があった

小川 島原、森岳らしき「生かす以外に道はなかった。「古いもので生きていこう」と思った時、資源が残っていた。長浜七郎さん(62) 建築デザイナー この商店街、清水の次郎長一家みたいな一匹狼ばっかり。でも、何かやる時は一生懸命。一時、客をアーケード街に持っていかれたけど、商売が前面に出ず「一杯お茶を飲んでいって」島原、森岳を好きになってほしい」という姿勢が成功した。

光永 「商店街の体をなしてない」というのは皆ある程度認めていて、ほかの道を歩むしかなかった。

# 人情流れ続けるまちを

## 課題

若い人はどうして参加するようになったんですか

村田 商店街の集まり

今まで40代以上のメンバー中心でやってきた。20、30代という次の世代にどうバトンタッチして、育てていくかが課題では

猪原 次の世代は人材の宝庫。20、30代がひしめき合っているのに、我々がかましている世代がワーワー言わず、次に移す意識があった方がいい。いかに若手の新しい感覚をまちづくりに出していくかは課題。

光永 次の世代がどう

に父の代わりに行き出してから。にぎやかで、いつも「次は何しようか」と考えていたし。

上田珠代さん(36) 眼鏡、時計店 猪原さんの一言。「自分たちで住んでいるのは、自分たちで考えよう」と言われて。

橋本博仁さん(36) 理容店 職業柄、年配のお客さんと話していて「昔、これは一番良かった」と言われると「今から見ると思っているようになった。まちづくりに参加してから特に。

# 自由な議論、許す風土

## 自慢

この点は誇れる、というのは

光永 酒も飲まずに深夜まで議論する。それを毎週毎週やる。そういうエネルギー、責任感から生まれた意見は、強い。「誰かがやるやろう」ではない。

松坂 僕は商工会議所青年部などでは「常識はずれ」と言われるが、森岳では認めてもらえている。小川の意見なんて、青年会議所なら絶対に却下される。イラストマップとかとっぴな考えが通るのは不思議。

村田 森岳という土壌で開花した。安藤 結果オーライは多い。でも、それは議論を尽くしているから。

中川 まちづくりはよそ者、ばか者、若者がいるという。ここはばか者が多い。

安藤 若い者の意見でも、良いものであれば通る柔軟性は誇れる。頭から「そがんこ」してものだ

けど、号令がかかれはやるパワーはある。

「め」とは言わない。それが許されたのは土地柄ですか

村田 光永さんは若いときから会長をやっていた。いろいろ苦労してきたから、若い人の話も聞く姿勢があった。

光永 何かしないといかんかとは思ったけど、私たちの世代じゃけんかった。若い世代の意見を受け入れれば、責任もって一生懸命やるんじゃないかと。後始末は受けてやるからやれ、と。

今後のまちづくりはどうしたいですか

橋本 割と地元の人が森岳を知らない。地元の方を歩かせたい。

上田 「昔は良かった」でなく、今を評価してもらえようになりたい。

安藤 この前「森岳にそぞろ歩きました」とウチの店に入ってきた人がいた。そういう人がもっと増えれば、活気がでる。

光永 最後に一言「人情豊かな森岳へどうぞ」って書いておいて(笑)。